

書香

2000. 3. 27

No. 35

目

次

- | | |
|---|--|
| ◎ 藤沢周平の時代小説
(工学部 佐々木和男) …………… 1 | ◎ 紹介
○ 電子ジャーナル・サービス
ScienceDirectについて …………… 9 |
| ◎ 諸報
○ 「富山大学開学50周年記念図書」について
—有効活用を期待して—
(附属図書館長 小谷 仲男) …………… 2
—記念図書の購入・整備—
(附属図書館事務部長 竹若 重勝) …………… 3
○ 《本学図書資料紹介コーナー》
富山大学の数学関係雑誌について
(理学部教授 鈴木 正昭) …………… 5
○ 学生生活実態調査結果について
(情報サービス課) …………… 6 | ◎ 案内
○ 本学教官執筆図書案内……………13
○ 2000年度外国雑誌案内……………13
○ 附属図書館利用案内……………15
○ カレンダー……………17 |
| | ◎ その他
○ 図書館関係会議……………18
○ 平成11年度附属図書館商業員名簿
(平成12年3月現在) ……………18 |

藤沢周平の時代小説

工学部 教授 佐々木 和 男

趣味はと聞かれれば読書と答えることにしている。趣味で読むのだから肩の凝る本は読まない。本を手に入れる場所は富山市立図書館である。大体隔週の土曜または日曜日に出かけ、5冊の本を借りてくる。だから、年に100冊近くは読むことになる。国内外の出張に出るときは宿泊日数を考えて文庫本を買ってゆくから、読む本数はもう少し増える。推理物、時代物、歴史物、伝奇物、企業物などジャンルを問わずどんな本でも読むのだが、借りてくる本には時代物、歴史物が多い。

時代物の作家では藤沢周平が好きである。藤沢周平は山形県鶴岡市の生まれで、中学校の国語教師であったが肺結核で退職。その後食品業界紙の編集に携わっている間に書いた「暗殺の年輪」で第69回直木賞を受賞し、作家生活に入った。「蟬

しぐれ」、「三屋清左衛門残日録」、「海鳴り」など多数の作品を書いたが、3年前の1月に亡くなった。「三屋清左衛門残日録」などはNHKのドラマとして放映されたから、記憶にある方もあろう。同じ頃に亡くなった司馬遼太郎のように騒がれた作家ではなかったが、隠れた藤沢周平ファンは今でも多いようである。

時代小説には作家が育て上げた独特のキャラクターをもつヒーローが登場するが多い。野村胡堂の銭形平次、柴田練三郎の眠狂四郎、山手樹一郎の桃太郎侍(新二郎)、笹沢佐保の木枯し紋次郎、池波正太郎の鬼平などである。これらヒーローが縦横無尽の活躍をし、弱きを助け強きをくじいてくれる。

藤沢周平の時代小説には平次や紋次郎や鬼平の

ようなヒーローが出てくるわけではない。鶴岡庄内藩をモデルにした海坂藩の下級武士や江戸の市井に生きた庶民が主人公らの話が多い。藤沢周平はこのような主人公が織りなす人間模様を的確な風景描写の中、実に優しい眼差しで、透明感溢れる文章で描く。彼の小説を読む人達は、人間模様の根底にある喜び、悲しみ、怒りなどが現代と

質のものであり、その中で必死に生きてゆく下級武士や市井の庶民が実は自分であることに気づき、そしてその自分を見つめる藤沢周平の眼差しの優しさに癒される思いを感ずるのではなからうか。それが声なき声をもつ隠れた藤沢周平ファンが多い理由であるように思われる。藤沢周平の時代小説、是非ご一読を薦めたい。

諸 報

「富山大学開学50周年記念図書」について —— 有効活用を期待して ——

附属図書館長 小 谷 仲 男

富山大学は昨年1999年で開学50年目を迎えた。富山大学は1949年5月31日に新制大学として開学されたが、ゼロからのスタートではなく、その前身に富山高等学校、高岡高等商業学校、富山師範学校、富山薬学専門学校、高岡工業専門学校などの基盤があり、多くの遺産、伝統を受け継いだ。富山高等学校の開学記念（1924年）に購入されたラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の全蔵書も、そのまま富山大学附属図書館に移管され、現在ヘルン文庫として特別室に蔵書されている。

富山大学は開学50周年を迎えるに当たり記念事業を企画し、本学の教職員や卒業生、ならびに県内外の企業などのみなさまから多額の寄付金をいただいた。記念事業には式典、祝賀会（1999年11月13日挙行）のほか、『富山大学五十年史』の刊行（現在編纂中）、国際交流事業の推進、大学図書の充実などが計画され、このほど大学附属図書館に図書充実経費として3,000万円の割り当てをいただいた。関係者のみなさまに深くお礼を申しあげるとともに、記念事業の趣旨にそって有効に活用したいと思う。

開学記念図書の選定方針については、附属図書館商議会で幾度か検討を重ね、方針として、1) 特別図書（主として大型コレクション）、2) 一般図書（主として学生用）の二種に区分し、それぞれの区分で商議会教官と図書館職員とが分担し、

選定に当たることにした。図書館が分担するのは主として既収シリーズ図書中の欠本補充、ヘルン文庫の充実、最新の辞典類・視聴覚資料などの学習参考図書の収書である。図書館選定分の一部は既に購入済みで、閲覧に供しているもので以下に紹介したい。

1) ロウブ古典叢書 *The Loeb Classical Library*, founded by James Loeb 307冊

これはギリシャ、ラテンの古典対訳叢書で1912年に出版が開始され、現在も引き続き刊行されており、総数は約500冊である。本学はすでに2/5程度を蔵書していたが、今回記念図書としてその残りの全冊を購入することができた。ギリシア語が緑色、ラテン語が赤色のハードカバーで、左ページに原文、右ページに英訳がつき、初心者にも使いやすいできており、ぜひ有効に活用してほしい。

2) ケンブリッジ大学出版物 Cambridge University Press 50冊

*The Cambridge Ancient, Medieval, Modern History*などは定評のある出版物であり、そのほか近年には地域史が多種刊行されている。なかには長い年月をかけて完結するもので、そのため本学蔵書のなかに欠本状態のものがあり、今回できるかぎり補充した。*The Cambridge History of Africa, China, Iran, Islam, Latin America, Japan, Southeast Asia*などである。それらには

ヨーロッパ人固有のアジア観が反映されており、私たちの見方と相違するところに注意しながら読むと、一層興味がわくであろう。

3) ヘルン文庫関係図書 古書14冊, その他約100冊

今回、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の旧蔵書1冊と、作品初版本13冊を古書で購入し、ヘルン文庫を充実することができた。現在はそれとともにヘルン(小泉八雲)の作品やヘルンについての研究、論説など関係文献を約100冊購入する計画をたてている。そのなかには本学に蔵書ずみのももあるが、ヘルン文庫中に別置されているために学生諸君には利用しにくい面があった。今回記念図書として購入するものはすべて学生用図書のなかに配架するので、利用しやすくなると思う。

ヘルン(八雲)は一時松江に住まいし、日本の民話、とりわけ怪談などを素材にした作品を書いたことで有名である。それらがすぐれた文学作品となったのは、ヘルン自身が文学者という以上に、どこか東洋的な求道者に共通する性格を合わせ持っ

ていたためであろう。かれの英文作品を通して、日本人の宗教的心情が世界に紹介された。今、ヘルン文庫の蔵書を見ると、ヘルンが日本に住みながら、仏教をはじめとする東洋宗教の研究書(英語、フランス語)をいかに系統的に収書しようと努力したかがよくうかがえる。またそれらの書にはエンピツによるヘルン自身の書込がある。そのヘルンが日本で何に感動し、何をいとおしく思ったか。それから100年あまりののち、科学技術の進歩と自然、宗教との調和をますます欠くようになり、今私たちは大きな悩みを抱えるようになっているが、ヘルンはそれを早くに予見していたように思う。ヘルンの蔵書が富山大学に所蔵されているのを機縁に、ぜひヘルンの作品、その関連研究書に親しんで、心豊かな学生生活を過ごしてもらいたい。

なお図書館商議会の教官選定分は目下公募などの方法を取り入れながら進行中であり、どのような記念図書が収書されるかたのしみである。それらの内容は逐次、この『書香』などで紹介していく予定である。

—— 記念図書の購入・整備 ——

附属図書館事務部長 竹若重勝

富山大学開学50周年を迎えるに当たり、県・市をはじめ、地元の産業界、経済界等の有志や本学各学部の同窓会を中心とした呼びかけにより、富山大学開学50周年記念事業後援会が設立されたのは、今からほぼ2年前の平成10年2月4日のことである。同後援会は、富山大学が地域に根ざし、開かれた大学として一層発展することを祈念して、直ちに各種の記念事業計画を公表するとともにその資金源のために募金活動を開始した。この記念事業には、「図書の充実」事業が含まれており、当時他大学の図書館関係者から非常に羨ましがられたことを思い出す。本学の学生諸君や先生方にとっては、開学50周年記念のお陰で、特大のプレゼントをしてもらったのと同然である。私達は、この記念図書の購入整備に、附属図書館が今後も教育・研究の中核的機関として機能していくよう

にとの願いが込められていることを、肝に銘じておくと同時に深く感謝しなければならない。附属図書館が、記念図書購入計画案策定に当たり念頭に置いたことは、開学50周年記念図書として相応しい大型コレクションを購入すること、学術的価値が高くかつ比較的高額の図書、更に一般図書としては、学生用図書の充実に結びつく学習参考図書、教養図書などを購入することであった。ここで、記念図書の選定について審議を行ってきた附属図書館商議会の動きを辿ることとしたい。

全体の記念事業に係る実行予算額がまだ示されていない頃の、平成11年5月17日開催の平成11年度第2回附属図書館商議会では、はじめて記念図書の購入整備についての概要説明を行うとともに各学部での討議を行ってもらうことを要請し、次回商議会において意見交換を行うことを約した。

この時の概要説明は次のようであった。記念図書の選定についての基本方針は、2本の柱立てとなっている。1. 記念特別図書（大型コレクションを含む）と、2. 一般図書（学生用図書としての学習参考図書、教養図書等）とし、それぞれに商議会選定分と附属図書館選定分とに区別して選定する。7月23日開催の第3回商議会では、「図書の充実」事業の実行予算額も3,000万円と確定したことに伴い、実行予算額の配分を概ね次のとおり決定した。

1. 記念特別図書	1,400万円
(1) 商議会選定分（大型コレクションを含む）	1,000万円
(2) 附属図書館選定分	400万円
2. 一般図書	1,600万円
(1) 商議会選定分（5学部×200万円）	1,000万円
(2) 附属図書館選定分	600万円
	計 3,000万円

また、次の意見が出された。(1) 少数利用者向けの選書は行わない。(2) 記念特別図書の商議会選定分には教官への公募方式も導入する、であった。

10月19日開催の第4回商議会では、記念図書の選定の基本方針について最終決定する一方、記念特別図書のうちの附属図書館選定分400万円については、開学50周年記念式典が行われる11月13日までに一部展示できるようにすることが望ましいという学内記念事業委員会の意見があったので、商議会の了解を得て、この分のみ先行して選書及

び調達作業に入った。そうしてこの分の主たる選書方針は、(1) 古典などのシリーズものの欠本を優先して整備すること。(2) 「ヘルン文庫」の充実を図ること、であった。予定どおり記念式典日の前日までには、附属図書館の2階に、「富山大学開学50周年記念図書」の展示コーナーが設けられ、納品された図書が展示された。以上のほかに商議会では次のような意見が出された。(1) 大型コレクションは、教官への公募方式により選定する（1セット50万円程度以上）。(2) 一般図書のうちの商議会選定分は、各学部で選定できる予算枠を一律200万円程度とする。(3) 附属図書館選定分の図書との重複を避けるために選書リストを作成し、参考資料として各学部へ渡す。(4) 記念図書のすべてに、「富山大学開学50周年記念図書」の印を押す。(5) 附属図書館の2階自由閲覧室低書架に一ヶ月間展示した後は、一般書架へ移す。(6) 今回、記念特別図書として購入する小泉八雲関係資料は、「ヘルン文庫」に配架する。平成12年1月26日開催の第6回商議会では、すでに文書による依頼は済んでいるが、改めて商議会選定分としての記念特別図書及び各学部提示予算枠内の一般図書の選定を平成12年3月21日までをお願いしたい旨を伝えた。できうるかぎり早く利用に供したいと考え、選書を急いでもらうためである。

附属図書館選定分の選書作業は、館長を座長とした館員によるプロジェクトチームにより進められた。現在は一般図書の選定作業も終えて、「一般図書選定リスト」を各学部へ送付したところである。これは重複図書を避けるためである。



附属図書館2階に設けられている「富山大学開学50周年記念図書」展示コーナー



式典会場に特設された「富山大学開学50周年記念写真展示50選」で披露した記念図書整備状況の写真（向かって右から4枚分）

昨年11月頃に、記念図書を館内展示して以降、学内外から貸出の照会がいくつかあったが、展示の必要性の事情を説明し、暫く待ってもらったことがある。また、納品業者から聞いた話だが、ロウブ古典叢書及びケンブリッジ大学出版物のシリーズものをこのようにまとめて収書しているところは、少なくとも北信越地区では珍しいとのこと

あった。まずは、できうるかぎり多くの学内利用を望みたい。

富山大学開学50周年記念事業により、このようにして記念図書が整備されることに対し、改めて深謝するとともに拙文であるが、その経過を記録にとどめておきたいと思い筆をとった次第である。

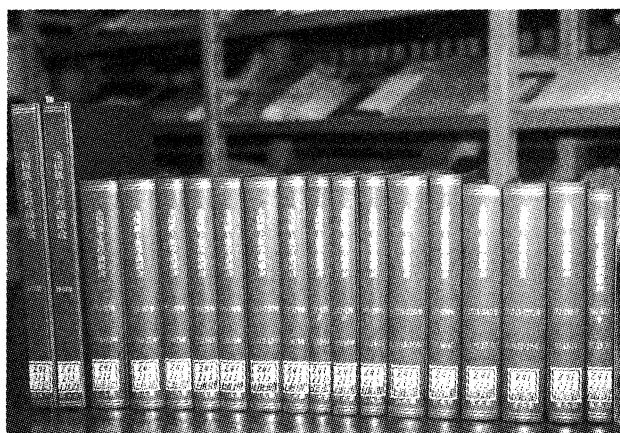
富山大学の数学雑誌について

理学部 教授 鈴木正昭

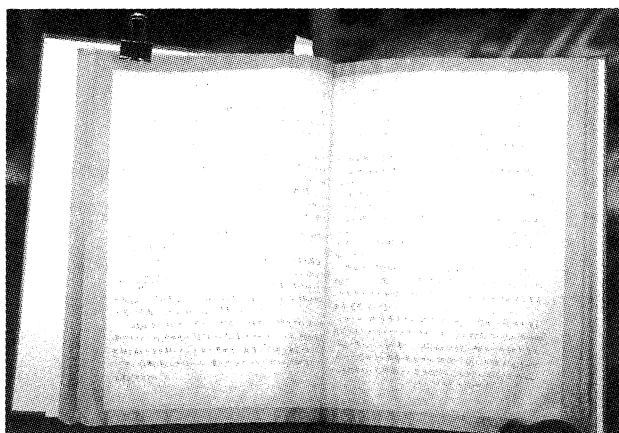
数学者とは雑誌ばかり読んでいる学者だという事を二十何年か前に本で読んだ記憶がある。

今、コンピュータその他の情報システムが発達しているが、雑誌の重要性は依然と変わらない面もあると思う。ここでいう雑誌とは数学ジャーナル、年報、報告、と訳される類のもので、数学の最近の研究論文が載っているものと思えばよい。

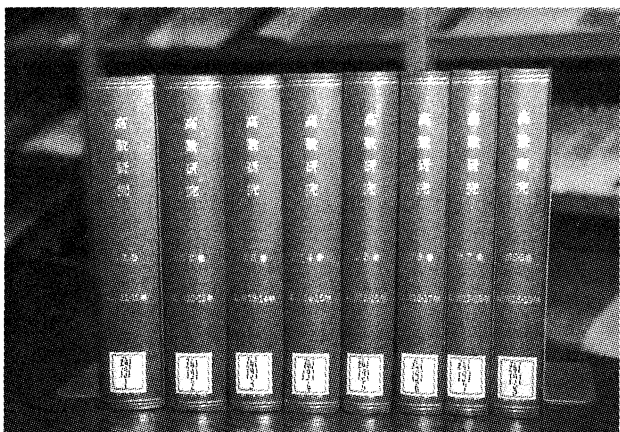
そのように研究に必須のものなので、数学者は出来るだけ多くの雑誌をすぐにみることが出来る所におきたいと思っている。そこで富山大学の理、教育、工の各学部の数学関係者は相談して、数学関係の雑誌を共同で購入し、理学部数学科の数学図書室になるべくまとめておいて利用している。しかし、そこにおけるのは限られているので、年



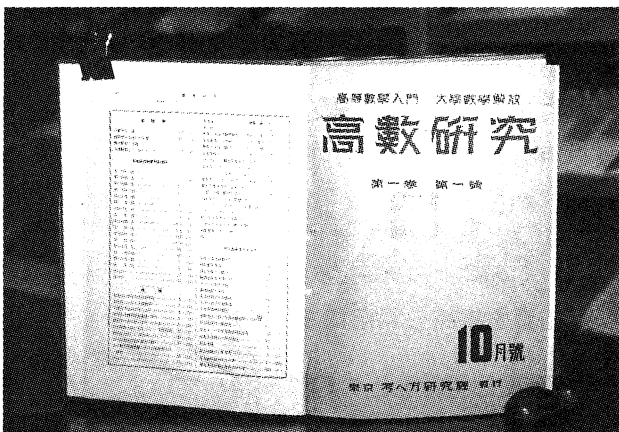
「全国紙上数学談話会」雑誌製本



「全国紙上数学談話会」雑誌ガリ版刷



「高数研究」雑誌製本



「高数研究」雑誌・表紙・目次

代の古いものや膨大な文献は中央図書館においてある。

また「書香」の第34号で東川教授がふれているように数学教室として「Mathematics Journal of Toyama University」を毎年刊行し、他の大学や研究所の出す雑誌との交換をはかっている。それは約300種に達し、購入雑誌と合わせると約450種の雑誌が利用できる。この多さは少なくとも地方国立大のなかでは最多ではないかと思っている。

また一方では旧制富山高校から受け継いだと思われる古い雑誌も多く所蔵している。ここではそのうちの二、三を紹介しておこう。これらは今ではコピー以外に殆ど入手不可能と思われるからである。

まず「全国紙上数学談話会」というのがあって、第1号は昭和9年で第250号は昭和18年3月となっていて、大阪帝国大学理学部数学教室発行となっている。例えば昭和17年の寄稿者をみれば、小平

邦彦、伊藤清、吉田耕作氏等というそうそうたる数学者の名前が並んでいる。戦時中も彼らの研究が続けられていたことを示す貴重な資料だが、それらは粗末な紙にガリ版で書かれているためこのままでは保存がむつかしそうだ。

また「高数研究」という名前の雑誌もあるが、これは考え方研究社発行となっている。昭和11年6月に第1巻がでていますが、高等数学の平易化、大学数学の開放を目標として発刊する（原文のまま）となっている。当時の大学入試問題の解説や大学での講義の概説、数学者のプロフィールなども載っていて、今みても興味深い。これは昭和19年までの分がある。

しかし、これらの古い雑誌を手にする人も少なくなり、それらは書庫の中でだんだん朽ちていく運命にあるのだろう。またはじめに述べたように、今ほど情報手段が多くなってくると雑誌の役割も変わっていくだろうと思う。

▶ 学生生活実態調査結果について ◀ ～附属図書館の利用を中心に～

情報サービス課

この調査は、富山大学学生の生活の実態を把握し、今後の学生サービスの充実・向上に役立てるための基礎資料を得ることを目的として、富山大学学生生活協議会により平成11年6月に実施されたものである。各学部や附属図書館等にアンケート用紙回収箱が置かれ、703名の学生から回答があった。

質問項目は学生生活全般にわたるが、ここではその中から附属図書館の利用に関するものを抽出して報告する。

なお、資料の配置方法及び探し方、情報検索端末の利用方法等についても利用者の考え方を聞きたいところであったが、今回はアンケート項目に盛り込まれなかった。次回に期待したい。

【附属図書館の利用について】

[1] 附属図書館をどの程度利用していますか。

週3回以上利用する	88 (13%)
週1回程度利用する	234 (33%)

月1回程度利用する	334 (47%)
一度も利用したことがない	40 (6%)
回答なし	7 (1%)

大学図書館が、教育研究のための図書資料（情報）を学生や教職員に提供することを目的としているならば、学生達にも良く利用されてはじめて存在意義があるといえる。

本学附属図書館は、平成9年2月に新館が増築竣工し、延床面積が倍増の約1万平方メートル、閲覧座席が約7百席となった。年間の延べ入館者数は、学生、教職員及び学外者を含め約30万人（平成10年度）にのぼる。1日平均約1千人。試験時期になると1日2千人から3千人の入館者があるが、まだまだ収容キャパシティは十二分にある。学生たちには大学に折角入学できたのであるから、勉学にも意を注ぎ、毎日図書館に立ち寄るくらい積極的に利用して欲しいものである。

[2] 図書館を利用する主な目的を3つまで選んでください。

自習	454 (65%)
図書の借出・閲覧	453 (64%)
文献検索	223 (32%)
休憩	147 (21%)
文献複写	129 (18%)
新聞の閲覧	94 (13%)
雑誌の閲覧	46 (7%)
視聴覚資料の閲覧	12 (2%)
その他	48 (7%)

平成9年2月に新館が竣工し、学習環境は飛躍的に良くなった。図書館を利用する目的で、自習と図書の借出・閲覧が多いのは当然として、ついで文献検索が多いのはインターネットが普及した最近の傾向であろうか。文献複写も多い。利用者端末や複写機の増設を検討する必要があるかもしれない。図書館を休憩の場と考えている人も結構多いのは時代の趨勢なのだろうか。音楽用のCDや映画のビデオソフトを備えている大学図書館も増えてきているようなので、本学でもこのような視聴覚資料の整備が必要かもしれない。ちなみに本学所蔵の視聴覚資料は語学やスポーツ等のビデオソフトが中心となっている。

雑誌の利用が意外と少ない。研究用の雑誌がほとんど学部研究室に貸し出されているためかもしれない。あるいは購入している学生用雑誌の見直しをする必要があるのではなかろうか。

[3] 設問[1]で一度も利用したことがないと答えた方に伺います。その理由は何ですか。

行く必要がない	25
見たい図書資料がない	2
その他	7
回答なし	6

[4] 開館時間について

(1) 平日の開館時間について伺います。	
このままで良い	480 (69%)
時間延長して欲しい	211 (30%)
その他	9 (1%)
回答なし	3 (0%)

(2) 土、日曜日の開館について伺います。

このままで良い	232 (33%)
時間延長して欲しい	448 (64%)
その他	17 (2%)
回答なし	6 (1%)
(3) 休業期間中の開館時間について伺います。	
このままで良い	303 (42%)
時間延長して欲しい	63 (9%)
土日曜日も開館して欲しい	138 (20%)
土日曜日も開館し時間延長もして欲しい	
	180 (26%)
その他	8 (1%)
回答なし	11 (2%)

平日の夜間利用についてはここ数年増加する傾向にあるが、現在の開館時間にはおおむね満足しているようである。

一方、土、日曜日の開館時間については、週休2日制の実施、サービスの拡充及び生涯学習社会の進展に鑑み、平成8年度から現在のサービス体制をとっている。実際の利用者数は顕著に増えているわけではないが、現行の12時30分から16時30分までの4時間の開館時間を十分とするよりは、更に時間延長を望む人が多い。

休業中の開館時間についても、利用者数は通常期と比べ極端に少ないものの、半数以上の人土、日曜日の開館ないし時間延長を望んでいる。

開館日数が多い、開館時間が長いということは、図書館サービス充実の基本であると考えられるが、このことを実行しようとする追加経費がかかる。アメリカの大学では多くの図書館が夜遅くまで開館していると聞かすが、多くの学生達に良く利用されているそうである。本学でも多くの学生がもっと図書館を利用する兆しが確認できるのであれば開館時間延長を考えざるを得ない。

[5] 図書館でよく利用する資料は何ですか。(複数回答可)

専門図書	554 (79%)
参考図書	299 (43%)
教養図書	197 (28%)
新聞	134 (19%)
専門雑誌	99 (14%)

教養雑誌	33 (5%)
CD-ROM	17 (2%)
郷土資料	9 (1%)
視聴覚資料	5 (1%)
特殊文庫資料	5 (1%)
マイクロ資料	0 (0%)

専門図書や参考図書の利用が多いのは当然として、雑誌の利用が意外と少ないようだ。図書館配架の雑誌が少ないためか、それとも学部学生は雑誌より図書の利用が主なためなのか。

CD-ROMは現状から見てみてももっと利用されていると思われる。CD-ROMそのものを貸出しているわけではなく、ネットワークを介して提供したり、パソコンに組み込んで提供しているので、利用している学生にはCD-ROMを使っているという意識がないためと思われる。

マイクロ資料の利用0件は資料そのものが少ないためか、あるいはその内容が研究者向けのためと思われる。

[6] 学生用図書等の充実度について

(1) 学生用図書の充実度はどうですか。

充実している	120 (17%)
まあまあ充実している	377 (54%)
不足している	174 (25%)
回答なし	32 (5%)

(2) 学生用雑誌の充実度はどうですか。

充実している	111 (16%)
まあまあ充実している	390 (55%)
不足している	145 (21%)
回答なし	57 (8%)

(3) 視聴覚資料、その他の資料の充実度はどうですか。

充実している	115 (16%)
まあまあ充実している	382 (55%)
不足している	127 (18%)
回答なし	79 (11%)

充実している、まあまあ充実していると回答した人が約7割にのぼる「日本の図書館1999」（日本図書館協会）のデータをもとに、研究用図書も含めた図書館資料全体で他大学と比較（学部数が

5～7の国立大学で、学生1人あたり）すると、資料購入費や貸出冊数は平均より少ないが、蔵書数や年間受入冊数は平均より多い結果となっている。附属図書館には学生用だけでなく研究用図書も多数蔵置されているので、全体として蔵書に対する満足度が高いのかもしれない。

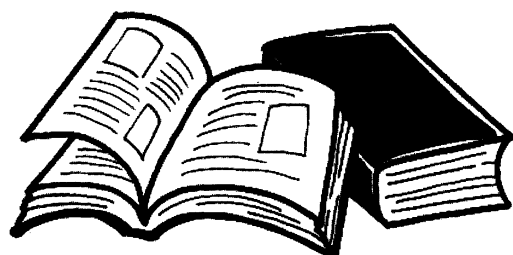
日本の年間出版点数は「出版年鑑1999」（出版ニュース社）によると6万点を越えているが、本学の年間受入冊数は洋書も含め約2万冊となっている。一つの図書館での資料収集には自ずと限界があるが、今後とも学生用図書購入費予算の増額に努力することはもちろん、限られた予算の中から必要なものをきちんと収集する努力を継続しなければならない。

なお、平成11年度は富山大学開学50周年にあたり記念事業遂行のための募金活動が行われ、この中から約3千万円が記念図書の購入に充てられることになっており、学生用図書の充実も図られることになっている。

[7] 貸出冊数及び期間について

このままで良い	421 (60%)
貸出冊数を増やして欲しい	34 (5%)
期間を延長してほしい	169 (24%)
貸出冊数の増と期間延長をしてほしい	57 (8%)
回答なし	22 (3%)

現行の貸出冊数5冊は妥当なところか。期間延長して欲しい要望が3割以上あるが、現行の2週間から3週間程度に延長する必要があるのだろうか。出来るだけ大勢の人に共同利用してもらうために2週間の貸出期間を設定していると考えられる。また、他大学の現現状を見ても貸出冊数5冊、貸出期間2週間の場合が一番多いようである。



電子ジャーナル・サービス ScienceDirect について

1. はじめに

現在、富山大学附属図書館ホームページからいくつかの電子ジャーナルを利用することができますが、今回はそのうち、Elsevier Science 社提供の電子ジャーナル・サービス ScienceDirect をご紹介します。

ScienceDirect は、Elsevier Science 社およびその系列出版社発行の雑誌を中核として約1,100タイトルの電子ジャーナルのフルテキストおよび抄録をインターネット経由で利用できるデータベースです。

2. サービス内容

2000年12月末までの利用については特別措置として、下記の特典が認められています。

- ScienceDirect に収録されている Elsevier Science 社およびその系列出版社の雑誌約 1,100タイトルがすべて購読誌扱いとなり、実際には雑誌の冊子体を購読していなくても、オンラインでフルテキストが無料で閲覧・印刷・ダウンロードできます。
- Elsevier Science 社およびその系列出版社以外の雑誌26タイトルについては、冊子体を購読していなければ、非購読誌扱いとなり、抄録しか閲覧できません。
- 利用者には直接関係ありませんが、2001年の参加基準金額（※）は2000年と同額になります。

（※）参加基準金額は、Elsevier Science 社に予約購読した雑誌の購読料合計を元に、出版社側がある一定の方法で算出した金額のことで、この額を下回ると、ScienceDirect に参加できなくなります。

また、約1,100タイトルのフルテキストが利用できるのは、あくまでも2000年の特別サービスによるもので、2001年については参加基準金額をク

リアしても、フルテキストを自由に利用できるのは実際に印刷物を購読している雑誌に限る、という方針に戻る見込みです。

3. 収録範囲

収録分野は、以下に示す12の大区分の下に、合計149の分野がリストアップされています。医学、技術工学、自然科学系が多く、社会科学が少しという構成になっています。ちなみに、人文科学 Humanities は社会科学の1分野に組み込まれていて、ほんのわずかしきありません。

- 化学, 化学工学
- 臨床医学
- コンピュータ
- 地球および惑星科学
- 経済学, ビジネスおよび経営学
- 工学, エネルギーおよびテクノロジー
- 環境科学およびテクノロジー
- 生命科学
- 材料科学
- 数学
- 物理学, 天文学
- 社会科学

収録年代については、雑誌によって多少の違いはありますが、大体1995、96年のバックナンバーから最新号までを網羅しています。最新号が利用できるのは、当然、印刷物よりも早いはずですが。

4. 接続方法

学内 LAN 端末を使い、下記の URL にアクセスしてください。附属図書館ホームページからアクセスする場合は、【附属図書館電子ジャーナル】をクリックしてください。

接続 URL <http://www.sciencedirect.com>

ScienceDirect のトップページが表示されたら、group-wide login をクリックしてください (図 1)。

なお、2000年の更新手続きによって変更があれば、図書館ホームページで通知します。

5. 利用方法

(1) 雑誌名一覧機能

上記4で接続したページの Journals ボタンをクリックすると、図2の画面になります。

図のように配列条件を by Subject にすると、主題別の大区分リストが表示されます。

頭の+記号をクリックすると、小区分リストが展開しますので、さらに+記号をクリックして、当該分野の雑誌リストを出してください。

雑誌名の頭に緑色マークの付いているものが購読誌扱いで、白色マークならば非購読誌扱いです。

目的の雑誌をクリックすれば、利用できる巻号・年月次がリストアップされますので、読みたい巻号をクリックしてください。当該号の目次情報が表示されます(図3)。

1件ごとに論題名などの書誌事項につづいて SummaryPlus, Article, Journal Format-PDF のリンクが張られていますので、必要に応じて目的のファイルをご覧ください。

他方、目的の雑誌名が最初からわかっている場合は、図2の画面上部に並んでいるアルファベット文字列の該当する1文字をクリックしてください。誌名順雑誌リストが表示されます。all をクリックすれば、約1,100タイトルすべてが誌名順に並びます。

<注意>主題別の大区分リストを系統立って開いていくやり方は、具体的な雑誌名がわからなくても検索できるという長所を持っている反面、利用者自身の予想とは異なる分野に収められている雑誌などは検索漏れの可能性がありますので、十分注意してください。例えば、前記3. 収録範囲のところでも示したように、人文科学 Humanities, 言語学 Linguistics が社会科学の下にあるように。

(2) 検索機能

図2の画面で Search ボタンをクリックすると図4の検索画面になります。

ScienceDirect に収録されているすべてのジャーナルと抄録データベースを対象に、Abstract, Title, Keywords, Authors, Journal Name などの検索タイプの中から適当なものを選び、任意の検索語 (Term) を入力します。

また、AND/OR 検索も可能ですし、分野 (Subject) や年代 (Dates) により検索範囲を限定することもできます。詳細は、Help または Search tips を参照してください。

6. データ

図3のように購読誌扱いのデータは、次の3種類の表示形式で利用できます。

① SummaryPlus

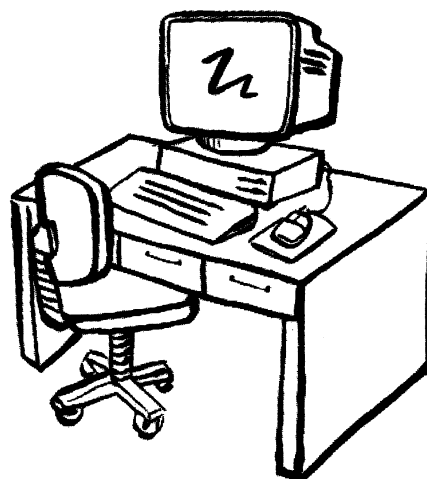
a) 論題名などの書誌事項, b) 抄録, c) 論文のアウトライン, d) 写真や図表のサムネイルイメージ (クリックすると拡大する), e) 参考文献 (ScienceDirect 収録の引用文献とリンクが張ってある) が含まれます。

② Article

HTML形式のフルテキスト

③ Journal Format-PDF

PDF形式のフルテキスト (PDF形式を見るには、Acrobat Reader というソフトが必要です。http://www.adobe.co.jp から無料でダウンロードできます。PDFファイルから印刷すると、冊子体と同じレイアウトで読むことができます。)



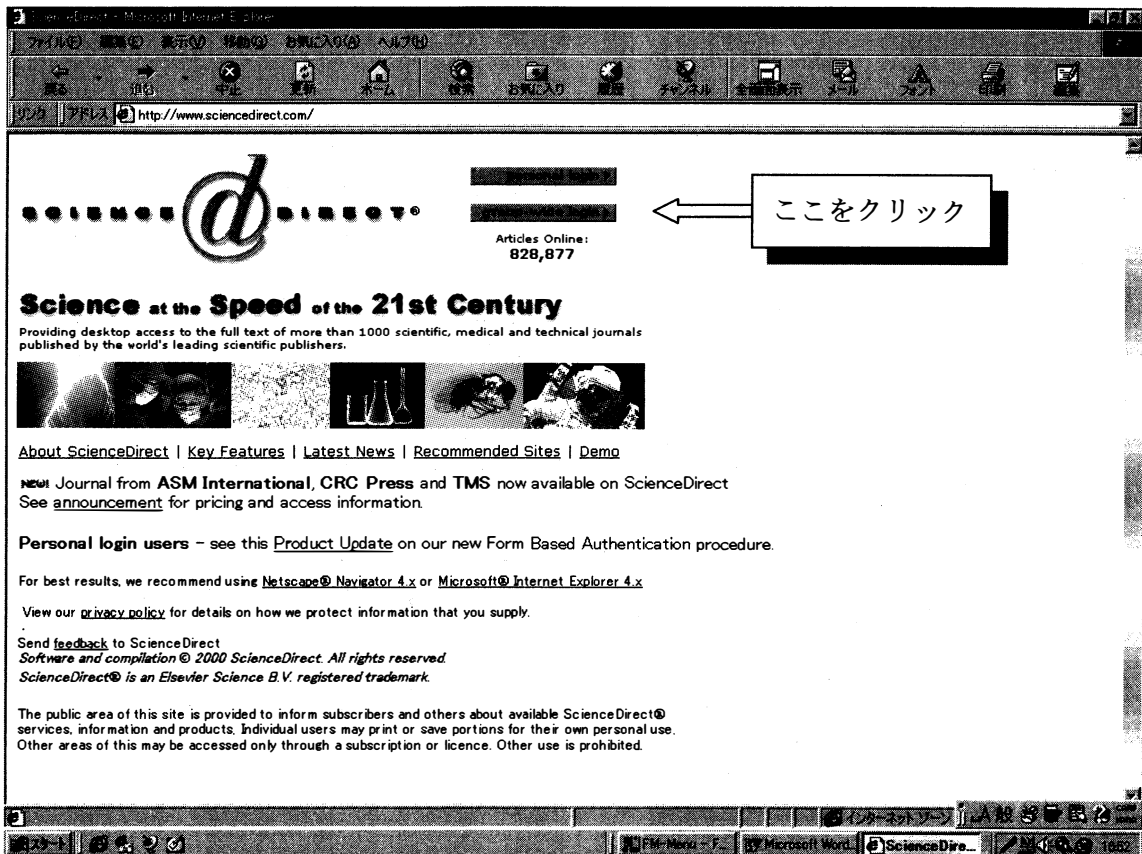


図 1 group-wide login 画面

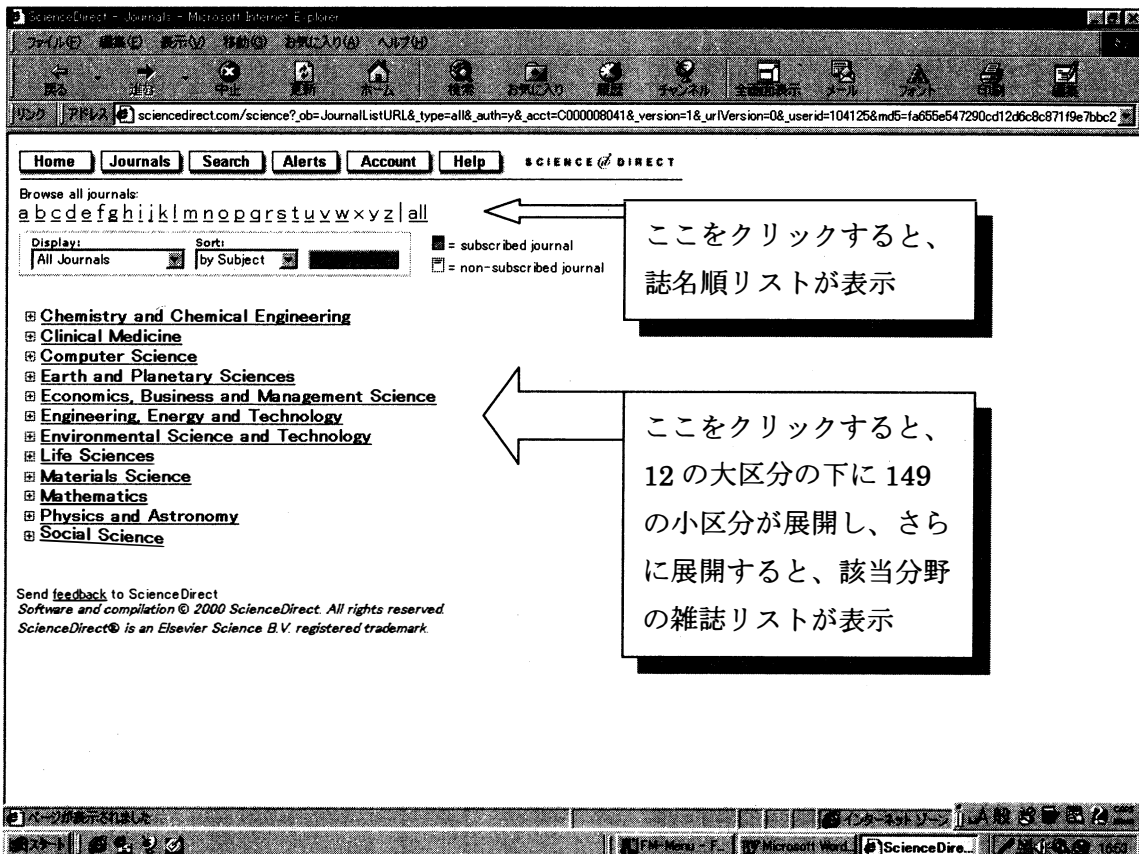


図 2 雑誌名一覧画面

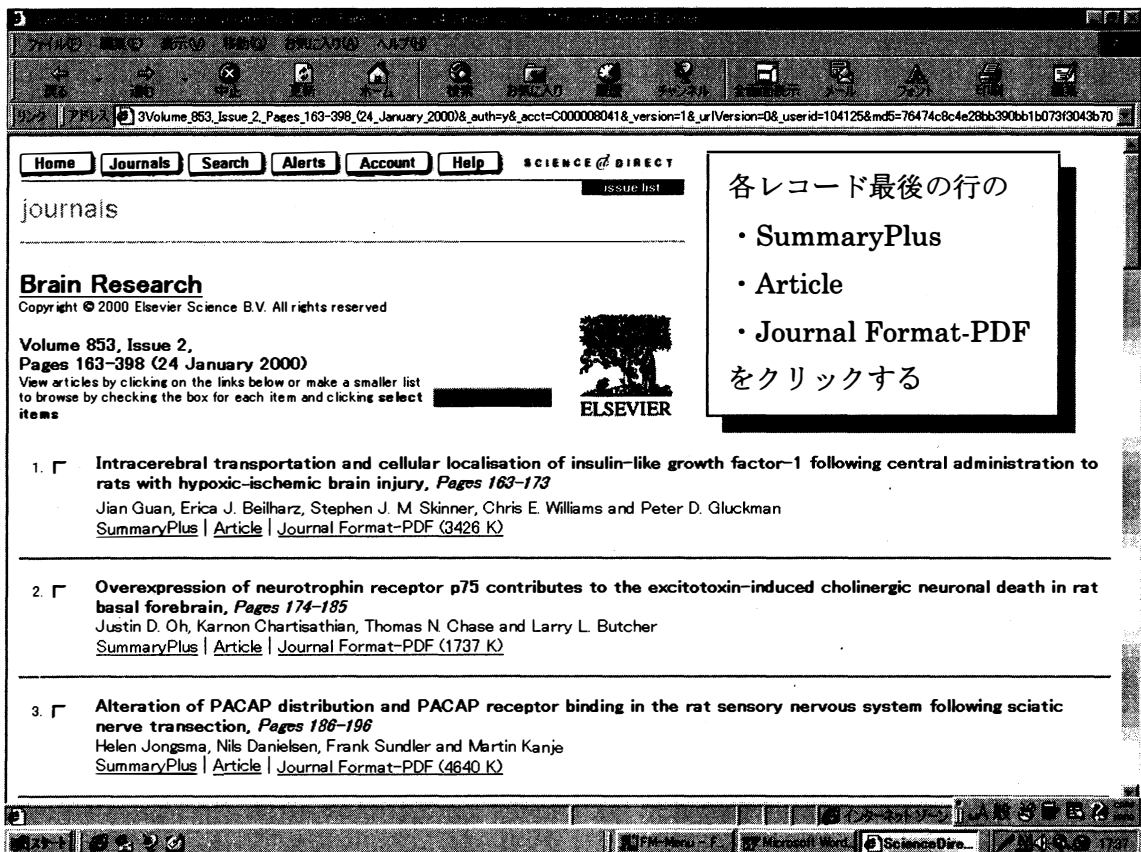


図3 目次情報画面

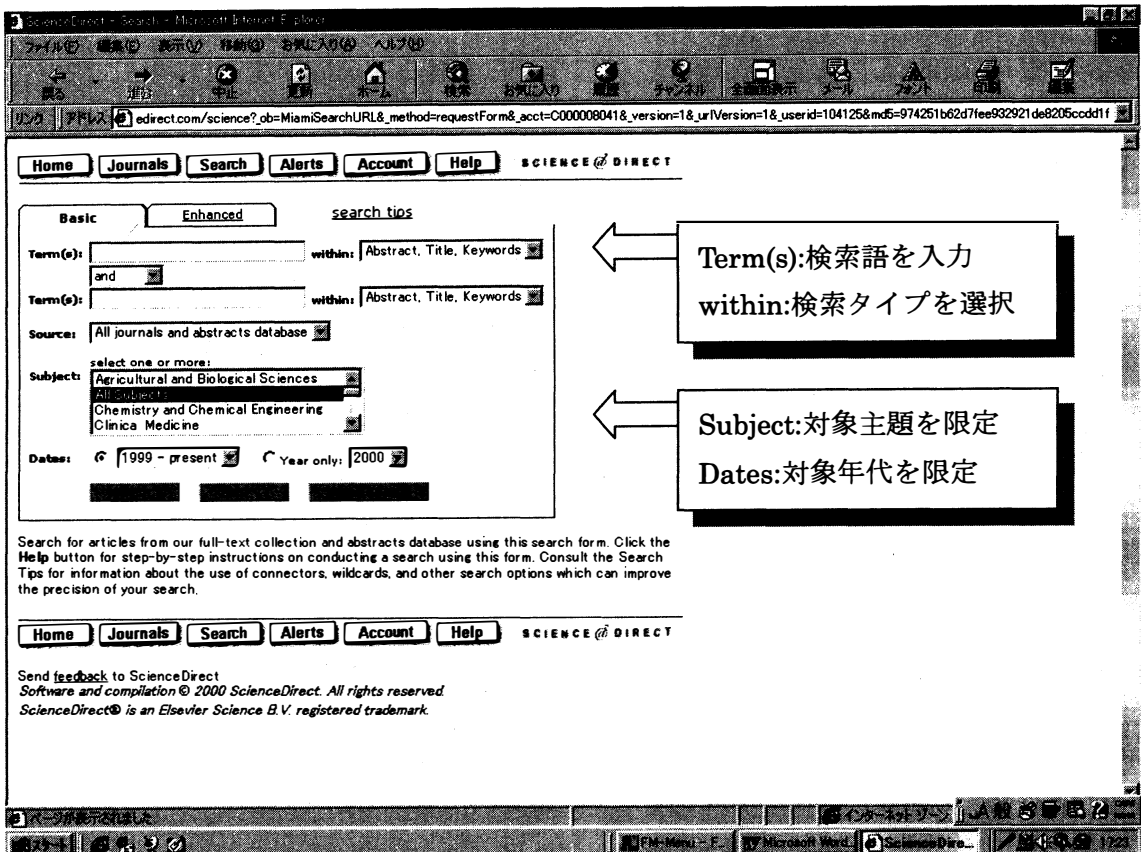


図4 検索画面

案 内

本学教官執筆図書案内

附属図書館では、本学の先生方が執筆された図書資料を積極的に収集し、本館2階に本学教官執筆図書コーナーを設け配置し、利用に供しています。出版されましたら是非図書館に2部ご恵贈くださるようお願いいたします。

なお、先生方からご寄贈いただいた図書は附属図書館ホームページで紹介するとともに、このページでも紹介します。以下のリストは平成11年11月以降に受入した資料です。

■ 歴史・地理

大月氏：中央アジアに謎の民族を尋ねて／小谷仲男著（人文学部）
東方書店 1999（229.6-Od-Da）

■ 社会科学

転覆の政治学：21世紀へ向けての宣言／アントニオ・ネグリ著 小倉利丸訳（経済学部）
現代企画室 2000（311-N31-Te）

幼児の思いにこたえる環境づくり：こんなところで遊びたい／富山大学教育学部幼児教育研究会，
富山大学教育学部附属幼稚園編著（教育学部）
明治図書 1999（376.157-T66-Yo）

■ 自然科学

唾液は語る／山口昌樹，高井規安共著（工学部）
工業調査会 1999（491.343-Y.m2-Da）

■ 工 学

企業空間とネットワーク／山川充夫，柳井雅也編著（経済学部）
大明堂 平成6年（1994）（509.29-Y.m-Ki）

2000年度外国雑誌案内

<新規雑誌>

Agricultural outlook

Algebra colloquium

American journal of agricultural economics

Annals of global analysis and geometry

British journal of aesthetics

Business Lawyer

Byzantinoslavica

Columbia business law review

Computer graphics world

Cultures et conflicts

D.E.S.building bulletin

Deutsche sprache

Deutsches und Europaisches familien recht

I.E.E.E. Transactions on power delivery

Journal of consumer studies and home economics

Journal of convex analysis

Journal of family and consumer sciences

Journal of early modern history

Journal of theoretical politics

Operations research-spektrum
 Oxford art journal
 Oxford review of education
 Print quarterly
 Print review
 Rural sociology
 Sociologia ruralis
 Southeast Asian journal of social science
 Speculum
 Visual neuroscience
 World agriculture production
 Эксперт
 Электрические стнции
 Известия
 Интерфакс-АиФ
 Регион: Экономика и социология

<中止雑誌>

Accounting, auditing, & accountability
 American anthropologist
 Anatolian studies
 Anatolian archaeology
 Antiquity
 ArchaeoZoologia
 Archiv fur elektrotechnik
 Art history
 Australasian science
 BAR International series
 Biological cybernetics
 Business week
 C.A.Selects. Infrared spectroscopy
 C.A.Selects. Roman spectroscopy
 Cambridge archaeological journal
 Communications of the A.C.M.
 Computing and visualization in science
 Critica d'arte
 Current law
 Distribution D'aujourd'hui
 E.T.Z. Elektrotechnische zeitschrift
 Earth science reviews
 Employment and earnings
 Environmental law and management
 Environmental research
 Games and economic behavior
 Geochemistry international

Historische bibliographi
 I.E.E.E Microwave and guided wave letters
 I.E.E.E Transactions on dielectrics & electrical insulation
 I.E.E.E Transactions on software engineering
 International journal of control
 International journal of human-computer studies
 International journal of osteoarchaeology
 Journal of the theory of social behaviour
 Journal of abnormal psychology
 Journal of anthropological archaeology
 Journal of archaeological science
 Journal of child language
 Journal of comparative economics
 Journal of comparative physiology. A
 Journal of development economics
 Journal of east Asia archaeology
 Journal of experimental social psychology
 Journal of memory & language
 Journal of peace research
 Journal of psycholinguistic research
 Journal of research in personality
 Journal of world business
 Mathematical problems in engineering
 Medizinrecht
 New Scientist
 Perception
 Proceedings of the National Academy of Science of the U. S. A.
 Proceedings. Mathematical, physical and engineering science
 Quarterly journal of speech
 Review of international political economy
 Review of scientific instruments
 Revue de l'art
 SiAM news
 Scientific American
 Semiotica
 Surface science
 Textile research journal
 Time
 Vision research
 World archacology
 Зергия

～新入生の皆さんへ～

附属図書館利用案内

附属図書館は、本館（メインストリートの突き当たり）と工学専門図書室（工学部キャンパスの管理棟1階）に分かれて、約89万冊の図書、約15,000タイトルの雑誌等を所蔵しており、様々なサービスを通じて教職員及び学生の教育・研究を支援しています。

以下の説明をよく読み、大いに利用してください。図書館のことでわからないことがあれば、遠慮なく係員にお尋ねください。

1. 開館時間

平日（学期中）

本館 午前9時～午後10時

工学専門図書室（同上）

（ただし、夏休み、冬休み、及び春休みの期間中は、ともに午前9時～午後5時です。）

土・日曜日（学期中）

本館 午前10時～午後5時

工学専門図書室（同上）

2. 休館日

- ・休業中の土・日曜日
 - ・国民の祝日
 - ・本学創立記念日の振替休業日（5月26日）
 - ・年未年始（12月27日～1月4日）
 - ・その他、館長が特に必要と認めた日。
- 詳細は、開館・休館予定表をご覧ください。

3. 図書の貸出と返却

図書館資料は、館内で自由に閲覧することができます。

貸出を希望する場合は、図書と学生証を貸出カウンターに提出してください。貸出冊数及び貸出期間は、次のとおりです。

- ・学部学生 5冊以内 2週間以内
 - ・大学院生 10冊以内 1ヶ月以内
 - ・研究生、聴講生等は、学部学生と同じ
- （ただし、雑誌・参考図書・視聴覚資料は、貸出できません。）

なお、貸出手続きを受けずに図書を持ち出すとすると、ブザーが鳴り、出口バーがロックされますので、注意してください。

夏休み、冬休み、そして春休み期間中は図書の長期貸出サービスを利用できます。

貸出を受けた図書は、返却カウンターに返してください。閉館時は、玄関左側の返却ポストに入れてください。また、返却期限に遅れると貸出停止になりますので、遅れないでください。

貸出期限内であれば、1回更新できます（ただし、長期貸出や予約者がいる場合は不可）。

4. 資料の探し方

図書館の資料の探し方には（1）コンピュータを利用する方法（OPAC：オーパックと読みます）と、（2）カード式目録を調べる方法の2種類があります。

（1）のOPACで検索できる範囲は、昭和60年度（1985）以降に受入した図書、それ以前の受入本でもさかのぼってコンピュータに登録した図書、更に、所蔵する雑誌の全タイトルです。

OPACの使い方マニュアルは、利用者検索（OPAC）用コンピュータ横に備え付けてありますので、一読して活用してください。昭和59年度（1984）以前の受入本については、コンピュータ未入力のものが多いので、上記（2）カード式目録を調べてください。著書名・書名・件名（本の主題を表す言葉）等のカードがABC順（和図書はヘボン式ローマ字）に配列してあります。

5. 資料の配列

利用者検索（OPAC）用コンピュータあるいはカード目録を使って求める図書の情報が見つかったら、その請求記号を確認してください。本を探す大切な手掛りになります。貸出中でなければ、館内の配架場所ごとに請求記号順に本が並んでいます。請求記号は下の例のような数字・英字の組合せで、図書の背にラベルが貼ってあります。

1段目の数字は、学問分野をコード化した分類番号を採用しているため、同じ番号あるいは近似

の番号のところには、同じような研究内容の本が集まっています。関連文献と一緒に見つけるのに便利です。

(例) 夏目漱石『吾輩は猫である』(漱石全集)
岩波書店

918.68

N 21

Iw=1

ただし、コンピュータ画面上は横一列になって、918.68/N21/Iw=1と表示されます。スラッシュ(/)ごとに1段落と見なしてください。

貸出中のものを利用したいときは、返却期限日から判断して、(a) 近日中に返却されそうな場合は予約をかけます。(b) 教官や研究室に長期貸出されているものは、一時借用のための専用の申込書が貸出カウンターにありますので、記入してください。

雑誌については、請求番号は特にありません。基本的に、雑誌名順に配列されているからです。外国雑誌(発行地が外国)はABC順、国内雑誌(発行地が国内)は五十音です。

ちなみに、図書館資料は書棚の左から右へ、書架の上の棚から下の棚へと並んでいます。1列の端まできたら裏側に続きます。

6. 館内の配架場所

[所在表示]	[配置場所]	[資料区分]
開架1	本館 1階	参考図書, 学生用図書
開架2	本館南 2階	雑誌(理工系)
開架2	本館南 3階	雑誌(人文・社会系)
開架2	本館南 4～6階	研究用図書
工学図	工学専門図書室	工学系の図書・雑誌

上表以外に、昭和59年度(1984)以前の受入図書は、本館北書庫1～2階及び工学専門図書室にあります。検索は、前述のカード式目録を利用してください。

雑誌のうち、大学・研究期間等の紀要・報告類は、本館北書庫3～4階に配架されています。開架2(本館南2～3階)の電動式集密書架で見つからない雑誌は、こちらを探してください。雑誌名のABC順に並んでいます。

書庫へ入るときは、学生証を提出してください(バッグ類は持込み禁止です)。書庫の利用時間は平日9:00～17:00です。

7. 参考調査・文献複写

本学図書館にない資料でも他大学等の所蔵を調べて、コピーや現物を取り寄せることができます(実費有料)。

また、館内にプリペイドカードが使える複写機を設置していますが、図書館資料を複写する場合は、著作権法に基づく所定の手続きが必要です。備え付けの文献複写申込書に記入の上、カウンターに申し込んでください。

その他、図書館の利用方法や資料のことでわからないことがあれば、カウンターで気軽にご相談ください。

8. その他のサービス

(1) インターネット、CD-ROM

本館南1階のマルチメディア・コーナーに情報検索用のコンピュータが設置してあり、インターネットやCD-ROMの検索ができます。また、IP接続が可能な携帯パソコンを持ち込んでインターネットを利用する場合は、本館南各階の閲覧室北側に用意してある情報コンセント(DHCP接続対応)が便利です。

(2) ビデオ

語学学習等のビデオが用意してあります。貸出カウンターで申し込めば、本館北2階自由閲覧室内のビデオ・ブースで利用できます。

(3) 購入希望図書

教育・研究に不可欠な資料で本学には所蔵していないものについては、所定の申込書に必要事項を書いて、リクエストすることができます。

(4) 富山医科薬科大学との相互利用

富山医科薬科大学附属図書館で図書の貸出を受けることが出来ます。貸出を受けるには、予め利用証の交付を受ける必要がありますので、学生証持参のうえ、富山医科薬科大学附属図書館の窓口で交付の手続きを行ってください。貸出冊数は、4冊まで、期間は2週間です。

平成12年度 附属図書館開館・休館予定表

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1	土	1	月	1	木	1	土	1	火	1	金
2	日	2	火	2	金	2	日	2	水	2	土
3	月	3	水	3	土	3	月	3	木	3	日
4	火	4	木	4	日	4	火	4	金	4	月
5	水	5	金	5	月	5	水	5	土	5	火
6	木	6	土	6	火	6	木	6	日	6	水
7	金	7	日	7	水	7	金	7	月	7	木
8	土	8	月	8	木	8	土	8	火	8	金
9	日	9	火	9	金	9	日	9	水	9	土
10	月	10	水	10	土	10	月	10	木	10	日
11	火	11	木	11	日	11	火	11	金	11	月
12	水	12	金	12	月	12	水	12	土	12	火
13	木	13	土	13	火	13	木	13	日	13	水
14	金	14	日	14	水	14	金	14	月	14	木
15	土	15	月	15	木	15	土	15	火	15	金
16	日	16	火	16	金	16	日	16	水	16	土
17	月	17	水	17	土	17	月	17	木	17	日
18	火	18	木	18	日	18	火	18	金	18	月
19	水	19	金	19	月	19	水	19	土	19	火
20	木	20	土	20	火	20	木	20	日	20	水
21	金	21	日	21	水	21	金	21	月	21	木
22	土	22	月	22	木	22	土	22	火	22	金
23	日	23	火	23	金	23	日	23	水	23	土
24	月	24	水	24	土	24	月	24	木	24	日
25	火	25	木	25	日	25	火	25	金	25	月
26	水	26	金	26	月	26	水	26	土	26	火
27	木	27	土	27	火	27	木	27	日	27	水
28	金	28	日	28	水	28	金	28	月	28	木
29	土	29	月	29	木	29	土	29	火	29	金
30	日	30	火	30	金	30	日	30	水	30	土
		31	水			31	月	31	木		

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1	日	1	水	1	金	1	月	1	木	1	木
2	月	2	木	2	土	2	火	2	金	2	金
3	火	3	金	3	日	3	水	3	土	3	土
4	水	4	土	4	月	4	木	4	日	4	日
5	木	5	日	5	火	5	金	5	月	5	月
6	金	6	月	6	水	6	土	6	火	6	火
7	土	7	火	7	木	7	日	7	水	7	水
8	日	8	水	8	金	8	月	8	木	8	木
9	月	9	木	9	土	9	火	9	金	9	金
10	火	10	金	10	日	10	水	10	土	10	土
11	水	11	土	11	月	11	木	11	日	11	日
12	木	12	日	12	火	12	金	12	月	12	月
13	金	13	月	13	水	13	土	13	火	13	火
14	土	14	火	14	木	14	日	14	水	14	水
15	日	15	水	15	金	15	月	15	木	15	木
16	月	16	木	16	土	16	火	16	金	16	金
17	火	17	金	17	日	17	水	17	土	17	土
18	水	18	土	18	月	18	木	18	日	18	日
19	木	19	日	19	火	19	金	19	月	19	月
20	金	20	月	20	水	20	土	20	火	20	火
21	土	21	火	21	木	21	日	21	水	21	水
22	日	22	水	22	金	22	月	22	木	22	木
23	月	23	木	23	土	23	火	23	金	23	金
24	火	24	金	24	日	24	水	24	土	24	土
25	水	25	土	25	月	25	木	25	日	25	日
26	木	26	日	26	火	26	金	26	月	26	月
27	金	27	月	27	水	27	土	27	火	27	火
28	土	28	火	28	木	28	日	28	水	28	水
29	日	29	水	29	金	29	月			29	木
30	月	30	木	30	土	30	火			30	金
31	火			31	日	31	水			31	土

- 通常開館 9:00~22:00
- 短縮開館 9:00~17:00 (工学専門図書室 1/19は 9:00~12:00)
- 休日開館 10:00~17:00
- 休館

国民の祝日に関する法律に定める祝日及び休日
 休業期間中の土・日曜日
 創立記念日の振替休業日 (5月26日)
 年末年始 (12月28日 - 1月4日)
 大学入試センター試験実施日 (1月20・21日)
 入学者選抜学力検査前期・後期日程実施日 (未定)
 館長が特に必要と認めた日

図書館関係会議

(平成11年10月～3月)

◎ 学内関係

- 第4回附属図書館商議会
期日 平成11年10月19日
場所 附属図書館会議室
- 第5回附属図書館商議会
期日 平成11年11月29日
場所 附属図書館会議室
- 第6回附属図書館商議会
期日 平成12年1月26日
場所 附属図書館会議室
- 第7回附属図書館商議会
期日 平成12年3月7日
場所 附属図書館会議室
- 第2回年史編纂委員会
期日 平成11年10月5日
場所 附属図書館会議室
- 第3回年史編纂委員会
期日 平成11年12月22日
場所 附属図書館会議室

- 第2回書香編集委員会
期日 平成11年11月29日
場所 附属図書館会議室
- 第1回年史編集小委員会
期日 平成12年1月27日
場所 附属図書館会議室
- 第7回年史編纂委員会
期日 平成12年3月7日
場所 附属図書館会議室

◎ 学外関係

- 北信越地区国立大学附属図書館事務部課長会議
期日 平成11年11月18日～19日
場所 福井厚生年金会館
- 国立大学附属図書館協議会理事会
期日 平成11年11月26日
場所 名古屋大学
- 国立大学附属図書館事務部長会議
期日 平成12年1月20日
場所 群馬大学

平成11年度附属図書館商議員名簿

(平成12年3月現在)

館長	小谷 仲男	理学部	鈴木 邦雄
人文学部	高安 和子	理学部	栗本 猛
人文学部	内山 純蔵	工学部	北野 博巳
教育学部	村上 宣寛	工学部	川原田 淳
教育学部	市瀬 和義	事務部長	竹若 重勝
経済学部	小松 和生	情報管理課長	星野 茂登一
経済学部	澤井 啓	情報サービス課長	田中 成直